



エルーラは、カプロモレリン酒石酸塩を有効成分とする選択的グレリン受容体作動薬で、グレリン受容体に直接作用して食欲と摂餌を刺激し、また成長ホルモン分泌を促進することで体重増加を促進する。猫の嗜好性向上に配慮したバニラフレーバ一並びに甘味を加えた粘稠性のある経口服液で、1日1回の投与で慢性疾患に伴う食欲不振や体重減少を示す猫の体重増加に対する有効性が認められている。

【成分及び分量】

本品1mL中、カプロモレリン酒石酸塩20mgを含む。

【効能又は効果】

猫：慢性疾患に伴う食欲不振や体重減少を示す猫の体重増加。

【用法及び用量】

猫：体重1 kg当りカプロモレリン酒石酸塩2 mg（製剤として0.1 mL）を1日1回経口投与する。

【使用上の注意】

（基本的事項）

1. 守らなければならないこと

（一般的注意）

- 本剤は要指示医薬品であるので獣医師等の処方箋・指示により使用すること。
- 本剤は効能・効果において定められた目的にのみ使用すること。
- 本剤は定められた用法・用量を厳守すること。

（取扱い及び廃棄に関する注意）

- 小児の手の届かないところに保管すること。
- 容器の開封後の使用期限は3カ月である。
- 誤飲又は過量投与を避けるため、猫及び他の動物の届かない安全なところに保管すること。
- 使用済みの容器は、地方公共団体条例等に従い処分すること。
- 本剤を廃棄する際は、環境や水系を汚染しないように注意し、地方公共団体条例等に従い処分すること。

2. 使用に際して気を付けること

（使用者に対する注意）

- 投与後に手を洗うこと。
- 誤って眼に入った場合は、直ちに水で眼を洗い、医師の診察を受けること。
- 誤って薬剤を飲み込んだ場合は、直ちに医師の診察を受けること。本剤はグレリン受容体に作用する薬剤である。

（猫に関する注意）

- 副作用が認められた場合には、速やかに獣医師の診察を受けること。

（専門的事項）**① 対象動物の使用制限**

- 本剤の有効成分に過敏症の猫には使用しないこと。
- 妊娠中、授乳中又は繁殖を予定している猫に対する本剤の安全性は確認されていない。
- 消化管穿孔など消化器に著しい傷害のある猫には使用しないこと。

② 重要な基本的注意

- 本剤投与後数時間、血清グルコースの一過性の上昇を引き起こす可能性がある。糖尿病又はその病歴のある猫での使用は評価されていない。
- 猫への投与後4時間までに心拍数と血圧の一過性の低下が報告されている。
- 本剤は成長ホルモン分泌亢進症（先端巨大症）の猫には注意して使用すること。実験的に本剤6mg/kgを投与した結果、血中成長ホルモン濃度の増加が認められている。当該作用は初回投与後に最も高く、投与継続により減弱した。
- 肝機能不全の猫には注意して使用すること。本剤は、ヒトと犬では、肝臓で代謝され、猫でも同様の代謝が予想される。
- 本剤の安全性は生後10カ月未満の猫では評価されていない。
- 本剤投与後15分以内に嘔吐がみられた場合、又は十分量の投与ができなかった場合、再投与を検討すること。再投与後にも嘔吐した場合には、当該日の投与は控え、翌日の投与を考慮すること。
- 本剤を長期的に投与する場合は、継続して病状及び本剤の安全性について観察し、また、定期的に血液学的及び血液生化学検査を実施することが望ましい。

③ 副作用

- 本剤投与により、流涎過多が認められることがあるが、ほとんどが投与後一過性であり、全身への悪影響はなかった。
- 本剤投与により、嘔吐、貧血、沈鬱、脱水及び下痢が認められることがある。
- 本剤は粘稠性の液剤であり、被毛に付着した場合に、口唇や下顎部の皮膚炎が報告されている。

【薬理学的情報等】

（薬効薬理）

本剤の有効成分カプロモレリンは選択的グレリン受容体作動薬（アゴニスト）である。カプロモレリンはグレリン受容体に結合し、グレリン様作用を示す。グレリンは主に胃において産生され、末梢性及び視床下部等に発現する成長ホルモン分泌刺激受容体1a（GHSR1a）に作用し、食欲を刺激し、摂餌量の増加を促す。また、脳下垂体からの成長ホルモン（GH）分泌を促すことにより肝臓におけるインスリン様グロースファクター（IGF-1）産生を刺激し、体重増加を促進する。カプロモレリンはこのようなグレリン様作用により、食欲の亢進、摂餌量と体重の増加が認められる。

（薬物動態）

猫にカプロモレリン酒石酸塩として3mg/kgを単回経口投与した薬物動態試験において、血中濃度は2時間で最高血中濃度（Cmax）に到達し、半減期（T_{1/2}）は1.04時間であった。絶食下でカプロモレリン酒石酸塩として2mg/kgを投与した際の薬物動態は、Tmaxは0.41時間、T_{1/2}は1.13時間であった。給餌30分後にカプロモレリン酒石酸塩として2mg/kgを投与した際の薬物動態は、Tmaxは1.75時間、T_{1/2}は1.70時間であった。

（安全性）

【安全性試験】雌雄の猫（1群各4頭）に、本剤を臨床投与量（2mg/kg）の1、3、5倍量で、1日1回、180日間経口投与し検討した結果、5倍量投与群において、糖尿病性ケトアシドーシス又は尿道閉塞がそれぞれ雄1頭に認められた。それぞれ、被験薬投与との関連は不明又は関連なしと判断された。その他臨床観察では対照群を含め流涎及び嘔吐が認められたが、流涎の頻度は用量依存性であった。その他の一般状態、血液学的結果、血液生化学的検査、病理学的検査所見に特筆すべき異常は認められず、結論として、5倍量までの本剤を180日間投与したときの忍容性が確認された。

【心血管系及び血糖への影響評価】8頭の若い雄猫に本剤を臨床投与量（2mg/kg）で1日1回、28日間経口投与した。試験1～3日はプラセボを、試験4～31日は被験薬を投与し血圧、心拍数、血糖値モニターを実施した。その結果、試験4～12日に一過性の血圧低下が観察され、投与後約1時間後に最も低下し（最低個体血圧は収縮期72 mmHg）、4時間後には回復した。心拍数は、被験薬投与後可逆性の低下がみられ、投与後1時間で最も心拍数が低下したが（最低個体心拍数は83 bpm）、投与後4時間までにベースラインに戻った。血糖値は投薬後に不変又は増加したが、ほとんどの動物ではプラセボと比べて明らかな変化はみられず、2頭で初回投与約3時間以降に血糖値の増加が認められた。試験4～6日には投与後3～9時間にわたり血糖値の増加が認められた（個体別の最大値：296mg/dL、全頭平均の最大値：141mg/dL）が、その後増加の程度は減少し、認められなくなった。

【プラセボ対照臨床試験】慢性腎臓病に罹患した猫を対象に本剤を臨床投与量（2mg/kg）で1日1回、56日間連続経口投与した。被験薬群：118症例、プラセボ対照群：58症例を安全性解析対象とした。最も一般的で10%以上の症例に認められた有害事象は、両試験群共に嘔吐、食欲不振、貧血及び元気消失であったが、とくに被験薬群の方が高頻度であった。また、過流涎は被験薬群（21.19%）にのみ認められた。嘔吐、食欲不振、元気消失はいずれも短期間で消失し、被験薬との因果関係を完全に否定することはできなかったものの、慢性腎臓病の悪化に伴う変化や他の要因による可能性も否定できなかった。過流涎は被験薬群のみで報告され、試験期間中1～3日程度と短期間で一時的な発生であり、投薬直後の発生から数分で回復していた。

【投与方法】


1. ボトルキャップをとり、添付のシリンジを差し込み、ボトルを逆さにして投与する量の薬剤を吸い取る。
2. ボトルの向きを元に戻し、シリンジを抜き取り、キャップを閉める。
3. 薬剤を猫の口に投与する。
4. シリンジとシリンジ内筒を水で洗い、乾燥させる。

【製品情報お問い合わせ先】

エランコジャパン株式会社 製品お問い合わせ窓口
〒107-0052 東京都港区赤坂四丁目15番1号
TEL: 0120-162-419
月～金/9時～12時、13時～17時（祝祭日及び会社休業日を除く）

製造販売元（輸入販売元）
エランコジャパン株式会社
東京都港区赤坂四丁目15番1号

獣医師、薬剤師等の医薬関係者は、本剤による副作用などによると疑われる疾病、障害若しくは死亡の発生又は本剤の使用によるものと疑われる感染症の発症に関する事項を知った場合において、保健衛生上の危害の発生又は拡大を防止するために必要があると認めるときは、上記【製品情報お問い合わせ先】に連絡するとともに、農林水産省動物医薬品検査所（<http://www.maff.go.jp/nvai/iyakutou/fukusayo/sousa/index.html>）にも報告をお願いします。

エルーラ、Elanco及び  : エランコ又は関連会社の商標です。

© 2023 Elanco or its affiliates

Elanco